

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

7

月号

2018年7月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

カウナス“第九”大成功

ウィーン岐阜管弦楽団・合唱団 音楽総監督 平光 保

5月23日 AM10:30 名古屋セントレア空港発。天候“雨”。気象担当田中智恵美さん発表によると最初の訪問地フィンランド ヘルシンキも“雨”。先行き不安に駆られながらの出発。ところが現地に着くと雲間から太陽が顔を出し、私達を温かく迎えて下さるようで、晴れやかな気分になり、この旅行の成功を暗示するようです。

翌日にはリトアニアの首都ヴァリニユスに着き、杉原千畝公園で“人道の桜”をアカペラで歌いました。残念ながら桜はもう1ヵ月前に咲いてしまっていたとの事。これも異常気象か!!。夜は昨年9月に岐阜にて交流演奏した合唱団との再会です。懐かしい顔を見て、皆、和気あいあいと楽しく歌い合いました。

5月25日からは、本番に備えたオーケストラ練習。日本のように“第九”をやらない国で、ほとんどのメンバーは初めて演奏する曲。バストロンボーン奏者は私の所に来て懇願するように「休符の長い後は、出る時心配です。マエストロ合図を下さい。」と、せがみます。それ以外の曲も、私の3曲と“人道の桜”リトアニア第二の国歌“緑濃き森林の大地よ”(私のオーケストラ編曲)。当然初めての曲。2日間、正味5時間足らず。「焦

るな」と自分に言い聞かせながらの格闘。本番は500席ほどの小ぶりのホールが座りきれず補助席を追加して超満員のお客様に対応。全員総立ちのスタンディングオベーション。信じられないくらいの良い出来栄になりました。現地のプロの合唱団も素晴らしかったです。演奏を聴きに来られた日本大使、重枝氏は打ち上げにも参加していただき、「先般、友好に来られた安倍総理より、今回の演奏会のほうが遥かに友好になった」と評していただきました。正に、音楽は人を救い、癒し、励ましあう世界共通の感覚を実感し、このカウナスの地で、同郷の大先輩である杉原千畝氏の精神を受け継ぐ素敵なコンサートになりました。

翌日には子供たちとの音楽交流、かわいい澄み切ったハーモニー、ピュアな人柄が醸し出す音楽は絶品。私たちは“雪よふるな”“見上げてごらん夜の星を”にて流れの良い音楽で交流を図りました。

29日には、いよいよワルシャワに向けて出発。ショパンの生家に立ち寄り、昼は『岐阜桜の会』の方とお会いする事が出来て、束の間の交流。

【人との交流の旅】を終えて、日本より暑いワルシャワの澄んだ五月の空を眺めながら帰国の途に着きました。

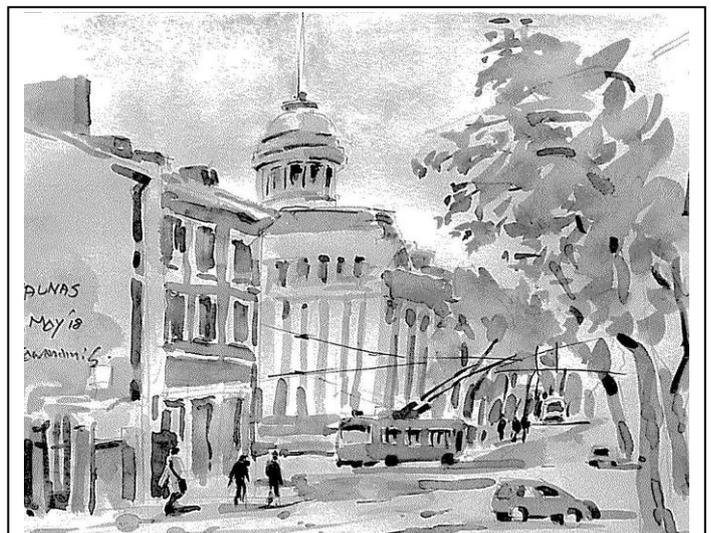
早朝のカウナスの街を写生。あちこちに教会があり、縦横にトロリーバスが走って、どこで、どっち向いても絵にしたい街並みがある。街が絵に描いてくれと言っているようだ。一体、こんな所が日本にはあるだろうか。

この朝、ある廃屋とおぼしき家の前に陣取ってスケッチしていたら、その廃屋から勤に出るらしい娘さんが出て来たのには魂消た。この国は美男美女の輸出国とは言うけれど、この女性も例外ではなかった。何処からでも美人が浸み出してくる。油断も隙もない。しかし、なんたるアンバランス。

廃屋が 美女を吐き出し 春うらら

(テノール 川浪 進 京都市より参加)

早朝のカウナスの街並み風景



杉原千畝が「命のビザ」を発行した「リトアニア・カウナス市で

「平和の第九」を歌う

私たち40名のメンバーは期待と不安に包まれステージに向かいました。しかしその不安は一瞬にして吹っ飛びました。カウナス国立フィルハーモニーホールは通路まで人で埋まっていた。万雷の拍手で指揮者平光先生が迎えられ、指揮棒があがると一瞬の静寂の後、素晴らしい音が会場に響き渡りました。第1楽章から第2楽章、そして第3楽章へ。そして第4楽章。さあ私たちの出番。勇壮なティンパニーの音と同時に起立。ソリストの“オーフロイデ”に私たちの合唱が続く。地元の合唱団の素晴らしい声にも支えられ、皆全力で歌いました。私たちとオーケストラと会場がまさに一つになっている瞬間です。一気に最終章へ。指揮者の手が止まった瞬間大きな拍手に包まれました。その拍手はしばらく続き、その中で私たちは感動と充実感に包まれました。



カウナス・フィルハーモニーホール(2018.5.27)



今年で9回目を迎えるウィーン岐阜合唱団ヨーロッパ演奏旅行。今年には杉原千畝にゆかりの地リトアニアと、ショパンの生誕地ポーランドを訪ねる9泊11日の旅。5月24日勇躍43名のメンバーはセントレアから、フィンランド・ヘルシンキを経てリトアニアの首都、ヴィリニウスに降り立ちました。

○「杉原千畝記念館」に行きました。(2018.5.28)

78年前の7月早暁、外交官杉原千畝が、時ならぬ喧噪に思わず窓の外に目をやった。私はまさにその場所にいるのです。千畝は建物の前の鉄柵に佇む大勢のユダヤ人が目に入った。鉄柵までの距離は意外に近い。10メートルもない。おそらく千畝はその眸に疲労と焦燥を、明確に読み取ることができただろう。

岐阜県出身の外交官が、6,000人のユダヤ人に「命のビザ」を発行した日本領事館は、街を見下ろす高台の住宅街の一角にありました。今もそこは当時のまま残され、杉原記念館として、世界各地から多くの観光客が訪れています。

○「サクラ」公園の杉原千畝のレリーフの前で「人道の桜」を全員合唱(2018.5.24)

空港に着くと早速、杉原千畝の功績を称え造られた「さくら公園」へ。対岸には国会議事堂を臨むヴィリニウス川のほとりに植えられた200本の桜。その前で、私たちはオペラ杉原千畝物語の終曲「人道の桜」を全員で歌い、杉原千畝に捧げました。桜はあいにくの異常気象で暑く、今年はずでに散ってしまったようですが、通り過ぎる子供たちや大人も思わず足を止め、拍手を送ってくれました。(副団長 見田村 勝信)

「リトアニア演奏旅行」に特別参加

岡崎 黎子 (アルト 四日市より参加)

今回はウィーン岐阜合唱団のリトアニア演奏旅行に参加させていただいて本当にありがとうございました。

私の所属している「四日市シンフォニックコーラス」に何度もヨーロッパへ「第九」を歌いに行っていたご夫婦がいらっしゃいました。今は高齢のため外国まではお出かけにはなりません、当時何度かお誘いいただきながらも仕事の都合がつかず、とても残念な思いをしておりました。

それが今回ひょんなことから清水ご夫妻からお声をかけていただき、何とか条件も整って参加させていただきました。何かとお耳障り・お目障りだと思いますが、快く受け入れてくださったウィーン岐阜合唱団の皆様へ心から感謝いたします。

カウナスでの「第九」は素晴らしい経験となりました。平光先生のお年(何歳かは存じませんが)に似合わぬ熱のこもった激しい指揮ぶりや伴先生のアルトソロ、そしてカウナス国立合唱団の響きのあるアルトの声、男声の迫力に満ちた声、更に満員の聴衆とスタンディングオベーション…。本当に「来てよかった！」と感激いたしました。

ヴィリニュスでの交流会、小中学校での歓迎と演奏とおもてなし、リトアニア女声合唱団の練習見学、少年合唱団の演奏と初めて目にする楽器とその演奏もあった交流会など、一連の多彩な企画は一般のツアーや個人旅行では味わえない貴重なもので、満足感でいっぱいでした。

思い起こせば昨年夏。ウィーン岐阜合唱団の定期演奏会で「フォーレのレクイエム」をするということで出かけて行って、プログラムの裏表紙に掲載されていた今回の演奏旅行の記事について反応してしまい、密かに狙っていたのです。

フィンランドとリトアニアにはまだ行ったことがない。自由時間もありません。あわよくば鉄道にも乗れるかもしれない。そんな不純な動機も後押しとなり、今回お声をかけていただいたのを「渡りに船」とばかりに図々しく参加させていただきました。

「第九」以外の曲も楽譜だけは事前に頂戴してなくては、と旅行メンバーによる練習の前半に参加して、皆様の合唱を乱さないように心掛けました。その練習の中で、合唱団の雰囲気がとても穏やかなことにホッと胸をなでおろしたものです。これなら11日間の旅行も歌も何とかなるかもしれない！案の定、皆様が最初から気軽にお声をかけてくださって、楽しい旅と演奏会になりました。

第2の目的はというと、ヘルシンキではホテルが駅のすぐ近くだったので、頑張って早起きして朝のヘルシンキ中央駅に行ってきました。カウナスでもフロントで「駅なら徒歩で20分」と聞いて、現在のカウナス駅へ行き、すぐそばの旧カウナス駅と思しき建物へも行ってきました。多分、杉原千畝さんが窓から最後のビザを投げ渡したところだと思います。現在のカウナス駅はがらんとしていてとてもリトアニア第2の都市とは思えません。時刻表も貰いましたが、1日15往復しか列車が来ないのです。すぐそばのバスターミナルは大勢の人が出入りしているのに、寂しかったです。

ワルシャワでは皆さんと「文化科学宮殿」の展望台に上った後、隣の「ワルシャワ中央駅」から空港まで、列車で往復してきました。その時の往復切符と帰りの片道切符は写真立てに並べて、今我が家のテレビの横に鎮座しております。鉄道マニア「乗り鉄」の私にとっては、当分の間宝物の位置にあるでしょう。

私にとっては久しぶりの飛行機での長旅でした。機内の設備もサービスも変わりましたが、何よりもわが身の衰えをまざまざと感じました。

お仕事をお持ちの方も多かったようです。到着が土曜日の朝とはいえ、皆様のお仕事とお体に支障がなかったことを願ってやみません。

皆様はお元気で定期演奏会を成功させてください。私は9月30日に井村誠貴指揮/四日市交響楽団で「四日市の第九」です。カウナスでお隣で歌ってくれた人の響きある声を思い出して、頑張って歌います。

いろいろとご尽力・お世話いただいた両先生、スタッフの皆さん本当にありがとうございました。

7~9月練習予定

月日	岐阜	月日	大垣
7月 5日(木)	長森コミュニティーセンター	7月 6日(金)	大垣市南地区センター
7月 12日(木)	長森コミュニティーセンター	7月 13日(金)	大垣市南地区センター
7月 15日(日) ながら児童合唱団と共に強化練習 長森コミュニティーセンター 13:30~17:00合唱団練習(その内13:30~15:30ながら児童合唱団と共に)			
7月 19日(木)	長森コミュニティーセンター	7月 20日(金)	大垣市南地区センター
7月 22日(日) ながら児童合唱団と共に練習 長森コミュニティーセンター 9:30~13:00 合唱団の練習 (その内11:30~13:00ながら児童合唱団と共に予定)			
7月 26日(木) 大垣市北地区センター 18:30~20:00(オケ合わせ)合唱団のみ			
7月 28日(土) ながら児童合唱団と共に(最終確認練習) 長森コミュニティーセンター9:30~12:00(合唱団のみ) 岐阜市北部コミュニティー13:30~15:30 ながら児童合唱団と共に			
7月 29日(日)ウィーン岐阜合唱団 定期演奏会 於:岐阜市民会館大ホール 14:00 開演			
8月 9日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 10日(金)	大垣市南地区センター
8月 16日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 17日(金)	大垣市南地区センター
8月 23日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 24日(金)	大垣市南地区センター
8月 30日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 31日(金)	大垣市南地区センター
9月 6日(木)	長森コミュニティーセンター	9月 7日(金)	大垣市南地区センター
8月 13日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 14日(金)	大垣市南地区センター
8月 20日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 21日(金)	大垣市南地区センター
8月 27日(木)	長森コミュニティーセンター	8月 28日(金)	大垣市南地区センター

平光 保先生へ

楽しかった第九回ヨーロッパ音楽友好の旅をふり返り

旅行から半月が過ぎました。口を開くとつい、リトアニアがようやく出なくなり平常に戻ったようです。振り返ってこれだけの旅はおそらくどこを探しても無いと思います。しかも、隔年に九回も実施出来ますこと、そして、一つの合唱団の事業として堂々と実施できるこれは偏に平光先生のお力と信望による他ありません。こうした土壌がどうしてできたのか、人生の不思議さを強く感じます。

この旅を詠んでみました。拙作でご覧になつて頂くようなものではありませんが、お送りさせて頂きます。二年後の第十回記念旅行には体力が続けば是非参加させて頂きたいと思っております。

年末の第九演奏会楽しみにしております

平成三十年六月十七日

南越前町「第九代表」 澤崎 信雄

果てしなき緑濃き大地萌えいずる牧畜農の労やすらげく

大またに乙女ら白く闊歩するミニミニスタイル好ましく見え

カウナスの子供らの舞いあふれくる迎えつくせし心身にしむ

聴衆と渾然として鳴り響く歓喜の調べカウナスの演

教会に集いし人々黙しつつみな背負いいる日々の陰みつ

青春の微笑うかべ織いなすコール乙女ら我れ過ぎし日ぞ

救いたく苦闘の中で信じ合う杉原夫婦の姿惚びぬ

菩提樹の梢に渡る香を受けてシヨパンの調べ立ち止り聴く

今日の陽を過ぎうれしき光さす澄みわたりたるワルシャワの朝

醜態を顧みずして帰りくるたゞ一向に手を突き感謝

おそらくはこれだけの旅いづくにも無しと覚えんマエストロ平光